

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2024年	1月	25日	(記入者) 宮本正博	
取材参加者	井本	西田	宮本	本井	
取材対象先	奈良市：鏡神社の本殿				

所在地	奈良市高畑町468				
所有者(取材 対応者)名	南都鏡神社(庶務***氏)		連絡先 ***		
	(個人情報守秘)		PCアドレス		
取材申込	申込先：南都鏡神社 庶務***氏 (宮司 梅木春興氏)				
奈良市 指定文化財	彫刻	軀	名称(指定年月日)		
	建造物	1棟	鏡神社本殿 1982(昭和57)年3月1日指定		
文化財指定理由	1728(享保13)年春日大社旧本殿の第三殿として建立したものを、1746(延享3)年の造替により譲渡移築した。当初の部材がよく残るとともに、移築の経緯も記録に残っていて貴重である。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	市の指導により、消火器は隅々に置かれ本殿には空気管での火災感知器が繋がり、非常ベルが設置されている。消防署より点検は年に1、2回あり防火対策をしている。	かなりよく防火対策はされ意識も高い。余談だが、本殿の手摺の漆は光に弱いため強い太陽光には毛布を掛けるなど日々細心の注意をして隔々まで目を行き届かせるなど文化財に細心の注意を払って見守っている。
獣害対策	被害の有無、対策など 改修時に本殿屋根裏にムササビの巣があったが、改修で屋根裏を銅板などで完全に封鎖し万全を期している。鹿や小動物などが来るが実害はない。	記入者の感想 改修が2年前なのできれいに整備され管理されている。
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	2021(令和3)年に30年に1度の修理(御造営)が行われた。前年から宮司を先頭に高畑町で650戸の氏子を中心に、2年かけて寄付金を集めた。また、市からの補助金もあり、無事御造営が行われた。春日大社の御造替終了後に御造替と同じ建築会社により鏡神社の御造営が着工する運びとなった。今回は費用面でも専門の職人も工面できたが、次回以降 檜皮、漆材料や宮大工などの専門の職人の確保、資金面のこと、氏子の高齢化など少し不安を感じているようである。今回は一部瓦葺の所を昔の檜皮葺に変えたり、塗も朱丹で鮮やかな朱色に改修できた。この社の庶務***氏も次世代のために御造営に関する詳しい写真や記録を残し伝統を伝えるための努力をされている。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

市の文化財への補助がしっかりできていると感じた。30年ごとの御造営は大変であるが、まだ氏子の存在が大きく新薬師寺の鎮守社として共存もできている。6神社の宮司として活躍する梅木宮司を支えて、日頃の維持管理は***氏が社務所で詰めていて受付・説明などもしている。宮司の息子さんは禰宜職で、将来は跡継ぎを考えている。例年10月14・15日は大祭で神輿なども出るが氏子が高齢のため車で神輿を運ぶようだ。

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2024年	1月	25日	(記入者) 宮本正博	
取材参加者	井本	西田	宮本	本井	
取材対象先	奈良市：鏡神社の本殿				

* 写真は掲載許可済

文化財指定名 鏡神社本殿

文化財 (本殿正面写真)	文化財 (角度を変えた写真)
	
拝殿	東の鳥居と南正面階段



文化財の由緒などを記入	所有神社の歴史や特徴を記入
<p>鏡神社本殿はかつての春日大社本殿を移築した「春日移し」の建築で、現在も美しい姿をとどめている。江戸時代1728(享保13)年建立(第46次式年造替)された春日大社本殿は、1746(延享3)年に第47次の式年造替が行われた。その際、「第三殿」をこちらの鏡神社に移築したものとなっており、1959(昭和34)年や1989(平成元)年の修理中、部材に「三ノ御殿」の墨書銘が確認されている</p>	<p>鏡神社の歴史は比較的長く、平安時代に入ってから間もない時期の806(大同6)年に隣接する新薬師寺の鎮守社として創建されたことに始まる。創建にあたっては、現在の佐賀県唐津市にある「鏡神社」から奈良時代(740年)に謀反を起こしたとして処刑された藤原広嗣を御祭神として勧請を受けたものとされており、この神社は藤原広嗣の怨霊・御霊を鎮める神社としての役割を果たしてきた。</p>